

著書紹介

著者自らが近刊を紹介します。

Academic Library



「『書くこと』の習熟度別指導ステップワーク集 中学二年編」

文学部教育学科准教授 中嶋真弓

▼B5判/149ページ/明治図書出版/2,400円+税/
2007.4発行

▼中学校2年生を対象とした、B領域「書くこと」のワーク集。「書くこと」を、「基礎的技能」「基本的能力」「統合発信力」の3つの観点から捉え、それらの技能や能力を獲得したり育成したりするために、習熟度別系統表を位置付け、段階を踏まえた学習ができるようにしている。



「堀内千恵・書と人生」

文学部教授 堀内千恵子

▼A4判/103ページ/日本学術出版/2,500円/
2007.5.5発行

▼書は裏返せば人生そのものである。良寛の世界、絵と書で表した童謡、床の間や茶の間に合う今風の書を取りあげて、一瞬一瞬をいかに考え、感じ、生きたかを表現した各作品に、それぞれ解説を加えている。



「パワー・ブック」(ジャネット・ウィンターソン著)

文学部教授 平林美都子(翻訳)

▼四六判/324ページ/英宝社/2,400円+税/
2007.5発行

▼現代英国を代表する前衛的女性作家ジャネット・ウィンターソンの小説の翻訳と研究論文。サイバー・ライターがコンピュータの仮想空間の中で、歴史や神話を織り込みながら、「彼女」のために物語を創作するポストモダンな小説。



「演劇論集 うたかたの散弾」

文化創造学部教授 角田達朗

▼B5判/282ページ/クリタ舎/1,800円/
2007.6.5発行

▼1997年から現在に至るまでの10年間に演劇に関して書いた文章を編集し、テーマ別にまとめたものである。私が名古屋在住なので名古屋圏で観たものが大半を占めるが、東京や大阪などで上演されたものも含んでいる。



「コミュニティ心理学入門」

コミュニケーション学部教授 植村勝彦(編著)

▼A5判/215ページ/ナカニシヤ出版/2,400円/
2007.6.15発行

▼日本にコミュニティ心理学が紹介されて40年近くになるが、初めてのバランスの取れた包括的内容をもつ、8名の執筆者による9章仕立てのテキストブック。



「コミュニティ心理学ハンドブック」

コミュニケーション学部教授 植村勝彦(共編著)、
文学部教授 渡辺かよ子(分担執筆)

▼菊判/811ページ/東京大学出版会/12,000円/
2007.6.27発行

▼日本コミュニティ心理学会設立10周年を記念して、学会の総力を結集して編集された、理論と実践を網羅する書。植村は「II章 コミュニティ心理学の基本概念」の責任編集と「1節 生態学的視座」および「7節 社会変革」を執筆、渡辺は「III章7節 メンタリング・プログラム」を執筆。